

第11回女性起業家大賞・グロース部門 奨励賞

山の恵みをたくさんの人に届けたい

株式会社柚子っ子 代表取締役 三澤 澄江

お裾分けから始まった、無添加で安心の柚子みそが
全国に元気と笑顔をもたらす



65歳で起業を決意
周囲の喜ぶ声を聞き

OLを定年退職後、数々のボランティア団体の活動を手伝うようになり、協力して下さる方へのお礼の気持ちにとお裾分けしていたのが「柚子みそ」です。体調が悪くて食欲のないときでも、お粥に柚子みそを載せて食べるだけで一気に元気になります。私自身、その効果を実感していました。周囲からも「親の人生最後の食事をこの柚子みそが支えてくれた」「もって食べたい」といううれしい声が寄せられるようになり、その数は次第に増え、気が付くと1000個も配るようになっていました。

徳島県は全国2位を誇る柚の産地です。新鮮な柚を求めて農家を訪ね「分けてください」と言うと、「勝手に持っていく」と言われます。代金を渡すと「えっ！金、くれるんけ？」と言って、笑顔が返ってくる。当然のことなのにこんなに喜んでくれます。

「山で生活する人々にお金を運び、喜んでもらえ、そして食べた人を元気にする。それなら柚子みそをたくさんつくって、柚をたくさん利用して、みんなで喜びを共有した

い」。私はそう思い始めると、止まらなくなっていました。

柚子みそを事業化し
東京や大阪でも販売

「山の恵みをあなたにあなたのやさしさ（お金）を山にゆずりっこ」との「譲り合い」の思いを込めて、商品名を「柚子っ子」と命名。会社名にも使用し、平成19年に株式会社柚子っ子を設立しました。資本金150万円での出発でした。

たくさん消費してもらうには都に出なければと、東京の伊勢丹新宿本店と大阪の近鉄百貨店阿倍野本店に商品を置いてもらえました。デパートの物産展や、俳優の永島敏行さんが開催している「青空市場」への出店など、精力的に都市への販売を開始しました。

永島さんから「コンクールに出展してみたら」と言われたのがきっかけで、一般財団法人食品産業センターの「平成20年度優良ふるさと食品中央コンクール」に応募したところ、「農林水産省総合食料局長賞」をいただき、大きな励みになりました。近くの空き店舗を借りて念願だったお店もオープン。事業は順調に広がっています。

「柚子っ子」の原材料は、全て国産です。食品添加物は使用せず、シンプルにつくっています。主原料の柚は、生産者が高齢であるため、消毒薬が散布されていません。一つ一つ丁寧に傷やシミを削り取りますが、近所の主婦と一緒に楽しく作業しています。

柚の実を守るために

これからは製造だけでなく、ボランティアを募って「ゆず守り隊」を結成し、山の手入れも行っていきます。この事業をもっと活発にして若い人の職場を増やし、人々の楽しみと、癒やし、生活を守りたいと考えています。

たくさん地域の人たち、全国の応援団に恵まれて、「柚子っ子」は徳島県の名物へと成長を続けていきます。



株式会社柚子っ子
(徳島市)
平成19年創業
柚子味噌「柚子っ子」および柚製品の製造販売
<http://www.yuzurikko.jp>